

第 13 号

平成11年1月1日

＜発行＞
江田島町シルバ－
人材センター

江田島町中央1-15-15
江田島町シルバ－ワークプラザ
TEL (0823)42-5211
FAX 42-5051

シルバ－ 江田島



ふすまはり講習会

頌 春

理事長 山佐 一男

明けましておめでとうございます。
皆さん方には新しい良い年を迎えられたことと思います。

昨年は国の補助金カットに併せ景気の停滞という厳しい状況の中で大変お世話になりました。お陰様で、実績も順調に推移しております。

今年も昨年が続いて厳しい状況が予想されるなかで、当シルバ－を発展させるには、原点に還った「会員の増加と、就業の拡大」が必要です。そのために、まず信用を得て社会から認められることだと思います。

「シルバ－は良い仕事をやる」、「あれなら任せられる」と一般からの口コミ・PRにつながるものが大切です。

待望の立派なワーク・プラザが完成して二年目を迎えます。ワーク・プラザを利、活用して技能講習の実施、自主学習等を引続いて行い、今後の就業機会の拡大を図ったと考えています。

次に、働く者にとって安全就業が一番です。昨年は傷害事故はゼロでしたが、物損事故が少しありました。お互いに気をつけて明るい職場にしましょう。

最後に、皆様方のますますのご健勝と一層の発展を祈念して新年のあいさついたします。

新年の御挨拶



江田島町長
平木 重巳

明けましておめでとうございます。シルバ－人材センターが現在のワークプラザへ移ってから、最初の新年を迎えました。会員数も二二〇名を数え、事業実績も年額六、〇〇〇万円に及び、センターは順調な発展を上げて来ました。御同慶にたえません。これも理事長、歴代の事務局長ならびに職員の方々、そして何よりも会員皆様の団結と御努力の成果であると思います。

さて皆さんも御承知の通り、我が国は今世界一の長寿国となっております。当然の事ながら、その事によって私達のライフスタイルも大きく変わりつつあります。つまり定年後、なお享受出来る長い人生をどのように生きるかということが、我々にとって大きな意味を持つことになるという事だと思えます。

長生き出来ても無為に生きたのでは何のことも判りません。矢張り何か対象や目標を持って、眼の前の時間を大切にしながら、地域や人の為になる事を考え、生きて行く事が大切であるように思います。

センターの皆さんは、自分の知識や経験を活かしながら元気に働いておられます。お互いの触れ合いの中から喜びも生まれてくることでしょ

う。皆さんこそ新しい時代のライフスタイルを有意義に生きておられるのであります。

「高齢化社会の活性化はシルバ－人材センターから」をモットーにして、頑張っていただきたいと思えます。センターの存在と活動には社会的にも大きな使命と責任がともなっており、ますますシルバ－センターの存在感が町民生活や意識の中に深く根づいてきたように思います。行政もセンターの健全な発展を願ひ、町づくりの中にしめる役割を評価して、相当額の助成をさせてもらっている訳です。今後共ワーク

全国シルバ－人材センター事業協会 十年度定期総会

平成十年度全国シルバ－人材センター事業協会定期総会が、六月二十四日(休)東京中野サンプラザに全国各地から九四六団体一、一〇〇名が参集して、盛大に開催されました。

これに当センターからは、山佐理事長、新本理事が出席しました。

まず第一部「幸せな長生きへの挑戦」と題して、あいち健康の森健康科学総合センター長の井形昭弘講師から「六五才以上を高齢者というが六〇才も六五才も変らない。平均年齢がまた延びた高齢者人口がまた増えたというが、これは間違いで経験と能力をもったエネルギーは、若い人にはないものであり、西暦二〇二

プラザを拠点として、益々情報を発信していただきたいと思えます。プラザに隣接する中央公園も健康公園として活用していただきたいと思えます。夏にはホテルが飛びまわる公園に思っています。何卒明るくなごやかな職場を作ってください。

終りになりましたが、会員皆さんの御健勝と御活躍を祈ってやみません。今我が国は大変きびしい状態の中にありますが、こんな時こそ、皆が力を合わせプラス思考で頑張らなければなりません。新しい年が皆様にとってより佳い一年である事をお祈りして新年の御挨拶と致します。

〇年には五二〇万人となる。これは医学の進歩によるもので、例に結核患者をみてもみるに全国で五〇人いるか、いないかという状況である。

一時は動物性脂肪が足りない時期があったが、現在ではとり過ぎており、生活習慣を改めなければならぬ。従来、長寿県といえれば沖縄であったが、今では四位となっている。高齢者のマンパワーが重視されている現在、長生きに挑戦して未来を広げ



ていく。元気であれば産業にいくらでも参加できる。健康で長生きを社会に貢献したいものである。」との講演。続いて

第二部は定期総会、佐々木管理部長の司会により、佐藤専務理事の開会宣言、次いで関会長から「全国各地から九四六団体、四七都道府県の人々が加入した活力ある高齢者事業となり、二一世紀に向け今こそ基盤をしっかりと固めていかなければならない。全シ協は今後とも全力を尽くしていくつもりである。よろしくご協力を得たい。」とあいさつされ、かわって来賓の松原宣子労働事務次官から「就労意欲の高さに加えて女性の声も反映していただきたい。」と祝辞され、来賓の紹介、祝電披露、安全就業優良シルバ－人材センターの表彰となり、北海道登別センターほか十四センターに対して行われ、議長に東広島市の植田理事長が選出されて議事に入りました。九年度事業報告及び収支決算報告、十年度事業計画及び収支予算がそれぞれ一括上程、原案どおり可決。補欠役員(理事)の選出は福岡市の相羽理事長の後任に後藤豊彦理事長を選任。事業推進基本計画の策定は原案可決、総会決議、原案どおり決議され、予定より三〇分早く七議案全部を終了し、交流会では和気あいあいのうちに相互の親睦をはかり、一九時閉会し、定期総会は盛會裡に終了しました。

阿蘇親睦旅行に参加して

人間歳を取ると、三欲全部には執着しなくなる。

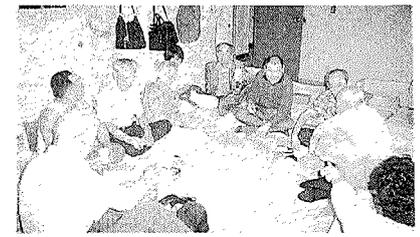
六十才に手が届いた者達の集団ともなると、飲み気と食い気、これを満足すると心がなごむのではないか、この為、一年に一度の親睦旅行はその意味で大きな役割があると思う。

呉港から参加者の殆んどの会員が予定通り、「山布」に乗船した。地区別に割当てられた船室に手荷物置き、中央の船室に集合した。ここで風呂井互助会会長の挨拶があり、

つづいて山佐理事長の発声で乾杯をした。待ち兼ねた様に各々好みの飲物を飲み始めた、コップ、缶等から喉を通る量が増す程に、船室は賑やかになる。広島港に到着する頃には皆さんは全開状態になった。広島港から乗船した人達を加えて改めて乾杯が行われた。これから午後十一時の消灯迄は歓声、歌、談笑の渦。中には自身の身体のコントロールが出来なくなり、廊下に寝る人も出た。

夜が明ける頃別府港に到着、棧橋が開くのを待つのか港口付近で暫し停船した。午前六時、港棧橋に接岸して直ちに下船、そして迎えの観光バスに乗り杉の井ホテルに行く、バ イキングの朝食を取る。アルコールはなし。再び先程のバスに乗込む、太田運転手、石田ガイドで九重高原のやまなみハイウェイを走る。最初に到着したのが猿廻劇場。この劇場

のスター雷太と小次郎のユウモラスな芸の数々を見る。次は、阿蘇ファミラランド、乳製品が一ぱい、二種類の地ビールを飲みながら昼食をとる。午前中に走っ



て来たハイウェイを折返す。ホテルに到着する迄の車中でカラオケ五曲が歌われた。申込数が消化出来ない。このため各曲共二番迄の制限となった。皆さん芸人ばかりだ、雰囲気づくりも上手だ。ホテル山水に到着し、宴会が始まる迄温泉湯に入る。開宴前のセレモニーは簡単に行われる。待ちかまえていたように歌が出る。後は想像の通り、会員各自の十八番の曲、三十曲の申込み、ここでも制限となる。踊りの上手な人がいるものだ。三日目は自由行動。午後一時に別

「ふすま」障子張り講習会

三月十日、十一日の二日間にわたって「ふすま、障子張り」の講習会を新築のワークプラザで開催いたしました。

研修室と作業室を通して会場にしました。講師は広島職業能力開発促進センターの呉市の中本さんでした。受講者は予想以上に多く三十五名でした。

第一日目、前半は障子についての構造、張り方について講義、続いてテーブル台を囲んでグループに分かれて実習しました。紙を伸ばして枠に当て熱心に張っておられました。特に糊のつけ具合を話し合っておられる姿は印象的でした。後半と二日目は「ふすま張り」です。

府港待合所に集合し昼食をとる。出港迄のおおよそ一時間も歓談、爆笑となる。他の旅客は目をパチクリ。帰路の「山布」に乗船す。出港直前に女性会員さんが気分が悪くなり、救急車で病院に行く。風呂井会長と下平次長と一緒に行く。残りの会員は船上の人となり、船は近づいた台風で時々大きく揺れるのを感じながら一途広島港を目指す。途中で何回か女性会員さんの病状が伝わって来た。大事にはいたらない様だった。先ずは一安心。(8ページ3段右につづく)

黒板を使つての講義、先生は分かり易くポイントをていねいに説明されました。又ふすまの模型を使ってはずしたり、組立てたりされたのでとても良い勉強になりました。特に「貼る」と「張る」の違いを力説され、紙はしっかり延ばすことが大切だと説明されました。

続いて実習です。これもテーブル台のグループに分かれ「ふすま張り」の実習を行いました。まず、枠をはずし、裏打ちの紙を張り、その上に紙を張りますが、なかなか上手にできません。それでも話し合いながら何とか出来上がり、一日目を終りました。二日目は次の「ふすま」を前と同じ方法で張りました。一回目より二

回と少し馴れたようで、まあまあ作業がスムーズに進みました。いよいよ出来上がり、先生の講評で二日間の講習を終わりました。この講習会で感じたことは皆さんが一生懸命に取組んでおられたこと、お互いの話し合いの中での作業で、よい勉強になったと思います。これからは一枚でも多く張って数をこなすことです。また、本年度の講習は、第一回を十一月十四日と十五日に、第二回を十二月五日、六日に、それぞれ二日コースで行われ、熱心に受講されました。





玉の汗を流しながらのワックス塗り

九月二十二日の午後、特別養護老人ホーム誠心園の床のワックス塗りの作業現場を訪ねました。

「二十六日に誕生会があるので、倶楽室と廊下のワックス塗りを先にする。部屋の床は別の日にやるつもり」

「仕事は今日から。六人来ています。作業は、まず床を洗い、乾いたところをワックスをかけます。今日はむし暑いので大変」

話してくださる時も額から汗が流れシャツは汗で黒くしみています。玄関から北側の廊下のワックス塗りが終わったところで、

「休みにしようや」
の声でみなさん倶楽室に集まります。椅子に腰かけ、

「ピアノは動かさんほうがあええ。へたに動かすと狂うことがあるけん」
「椅子は片側に集めようや。舞台上にあげるのはおおごとじゃけん」
休みながらも、話は仕事の手順。そのうち、

「台風はもう行ったんかね」
「行ったようですよ。日が射しています」
と私。

「家の中が涼しいと思うたが、風がないので暑うてかなわん」

「草刈りの方が楽じゃ」

「休みなしでやるんでえらい。帰ったら肩が痛むで……」
みんな、大きな声。

皆さん、缶コーヒーでのどをうるおします。私もいただきました。

「さあ、やるか」

の声で皆さん立ち上がり、椅子を動かす、ワックスを撒く、モップで伸ばし、ポリッシュャーをかけると、それぞれが動き始めます。その姿を写真に撮り、辞去しました。

切り花を折らないように…

九月二十四日午前、風呂井さん、下平さんと一緒に三高の山本さん宅のハウスを訪ねました。

私達が訪ねた時は、菊の花を採ったあと、株をおこしてトラックに積む作業の最中でした。

ハウスの中はむし暑く、抜きとった株をフォークで集め、コンテナに入れて、外に駐車しているトラックに積みこんで

支える仲間

いる。皆さん汗びっしょりでした。会員さんと一緒に仕事をしていた山本さんに聞きました。
「シルバ－の皆さんの仕事は菊の花の収穫作業が中心です。彼岸までが忙しく、毎日出荷、彼岸が過ぎると一日おきの出荷になります。作付面積は二町歩、出荷は大体一日に二五、〇〇〇本から二〇、〇〇〇本です」
菊のハウスは数か所あるとのこと。
「八月から九月ははじめは暑くて大変でした」
と会員さんが話してくれました。
「花の高さは二メートルくらい。それを上から一メートルくらいに切って運び出すのですが、切った花を持ち上げて出す時、ハウスの上の枠にあたって花が折れることがあります。白い花は一本百円から百五十円、黄色は五十円から百円もするので、とても気を使います」
「菊が枯れれば軽いのだが、今朝抜いたばかりなので、ソケが多くて……」
と、作業の手を休めないで苦勞を話してくれました。
山本さんは、
「花を切るのは午前中、五、六人です。花は全部一輪、そうするために脇芽、脇花は全部摘みとりません。これは女の人の仕事、大抵十五人くらいです」
収穫した花は選別してケースに入れます。一ケース、花は二〇〇本のこと。
「シルバ－の会員さんをお願いしてとても助かっています」
山本さんは最後にこう言ってくれました。
捨てる花の中に混じっていた菊を下平さんと私がいただき、帰路につきました。

芽つみの現場を訪ねて

十月二日の午前、御殿山のSさん宅のミカンの芽摘みの現場を訪ねました。畑は奥小路のトンネルの手前を御殿山に登る農道の終点の上、南に面した急傾斜地でした。
下から見上げると帽子だけが見えました。木の高さは三メートル近く夏芽が一メートル以上伸びています。
「ご苦勞さま。取材に来ました」
「芽摘みははじめて、今までは字根





川さんが専属でやっていたようです。剪定がよくできているので、仕事が楽です」

作業の手を止めて話してくれます。

「今年はダニがあまりいない。例年だと、木の間を通るとまっ赤になるのだが、この畑はそうになっておらん」

ミカンの実をつけていません。

「実がついていないほど夏芽が出る。宮ノ原、鷲部はなっているが、中郷向側の木はなっとらんようです」

目の前に術科学校から向側、山田、鷲部、江南と緑が続いています。

「ここは眺めがええ。緑がずっと広がって……」

先日の雨に洗われた木々の緑は鮮か、目の前に大きく広がっています。

「ようやくと秋らしくなった。日射しはきついが、むし暑くないので仕事やしやすい」

写真をとり、

「お気をつけて」

の言葉を残して去りました。

われら町を

慰霊祭を前に剪定と草けずり

奥小路の芽摘みの取材を終えたあと、事務局に寄ると「役場の草けずりがありますよ」

そこで役場を訪ねました。

役場を訪ねると、ちょうど休憩中。二つのグループに分かれ、日かげで休んでいます。下野さん達のグループは役場の入口のそばのベンチに腰を下ろし、談笑の最中。

「秋じゃのう。空気がカラッとしておって風が冷い」

刈り取ったチャブシバの葉が風に吹かれ、役場の入口に散ります。それを掃き取りに来た女性の会員さんに

「秋日に焼けたらホイトもほれん」

「わしの方じゃあ、秋日に焼けたらムカデも好かんと言うで」

面白い表現なので書きとめました。作業の再開です。

「昨年までは草刈機でやっておったが、今年は削ってくれと言われた」

「土が固いので削りにくいでしょう」

「うんと力がある。刃を研ぐとよく削れるので、ちよくちよく研ぐようにはしています。それと、平らに削るのではなく、角度をもたせ、草削りの角で削るとよう削れる」

「とぐちからやらないと。あと、残っていたら、またやらなきゃあいけない」

「そう話しながら碑の礎石のそばの草を抜きます。」

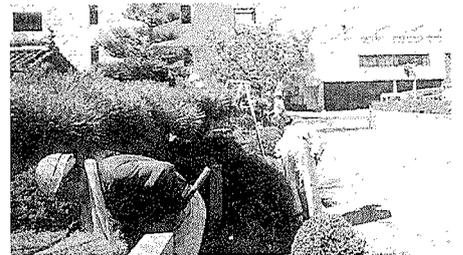
一つの組は剪定、もう一つのグループは剪定した木の枝を短く折ってトラックに積みこんでいきます。

「捨てに行く所は」

「鷲部の焼却場、五〇センチ以下にしておかないと、とってください。長いのは沖美町に捨てに行きます」

「ありがとうございます。気をつけてください」

「それぞれのグループに言葉をかけ、役場を去りました。日射しはきつかったが、風はカラッと冷たく、気持ちのよい一時でした。」



手際よく作業が進む

十四日は、金本さん宅の小屋の撤去の作業現場を訪ねました。道路を拡げるために壊すとのことでした。

「仕事は今日から二日間の予定。カワラ、泥を落として捨てに行くのが大変」

聞けば、沖美町の処理場まで行くとのこと。小屋の中には流し場、それ

にボイラーが設置されています。

「まだ使えそうですね」

「勿体ないが、これも捨てるんです」

小屋の北と西側の壁にトタンの波板が張ってあります。その取り外し。パールを使って釘を抜き、波板を外します。実に慣れた手つきです。西側は隣家と接し、隙間がなく、

「小屋を倒してから外さなきゃだめだ」

ボイラーの煙突の除去作業をしなから話します。煙突を固縛していた割に太い針金をパールの角に当て、金鋸で叩きます。簡単に切れるのは驚きました。

小屋の中に入って、ボイラーの撤去に移ります。ボイラーとつながっているパイプを鋸で切り、本体だけにします。切り外したパイプを外に出し、ボイラーの室内煙突を支えている金具を外し、タンクを外します。タンクを、次にボイラーの本体を外に運び出す。シャツの背中は一面汗で黒ずんでいます。

実に慣れた手つきで、流れるように作業を進めていく。その手際に感心してその場を辞去しました。



職域座談会

－ガイド班－

親身なガイドに見学者集まる

新本 ガイド班は、よいガイドを指して今までに研修旅行、講演会をもってきました。平成七年十月には鹿児島県の知覧、鹿屋を訪ね、昨年八月には宇根川さんの講演を聞くなど研修を重ねてきました。今回は、職域座談会のおとで研修会を予定しています。ガイド班が職域座談会のトップをきるのですから、普段思っていることを遠慮せずに出してください。

司会(森) 司会の森です。今日はご苦労さまです。地域別懇談会が終わりまして、広報委員会としては職域座談会をつづけて持とうと決めました。そのトップがガイド班。この班は江田島、特に術科学校の案内という一般の観光案内とは性質を異にするものですから、むずかしい面もあると思います。今日はそういうことを含め、いろいろとご意見を出してください。

当直員(隊員)が主

新本 土曜日、日曜日は見学者が多く、二グループに分け、当直員と私が分担することになっているが、制服の当直員の方にどうしても大勢がつかまいます。「説明は私の方がうまいんです」と言うと、私の方に集まって

くれる方もおり、それが嬉しい。当直員の方は大和の砲弾の説明などせず、すぐに参考館に入れる人が多いですね。

井川 当直員は案内が早いので、そのグループの人が参考館あたりでもう帰ってくる時もあります。

司会 当直員は隊員が当番でやるので、その人達を前面に立ててあげるのがよいと思います。

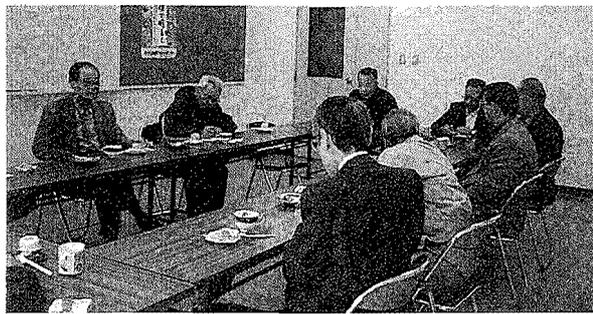
井川 これはちょっと言いにくいのですが、当直員が時間ぎりぎりに来るのビデオはついていない。

司会 当直員は広報の腕章をつけているので私はその人と相談して案内をするようにしています。

井川 この案内はシルバ

ーが頼んでやらせてもらっているの

で、この点はしっ



かりおさえておかねばと思います。小松 最初の研修会の時、この案内は術科学校が主で私たちは従と言われました。私は、だから制服がいたからその人が主になってやってもらうようにしています。

西野 十月中旬の台風が来るとい

時、隊の方から「私達でやらせてもらいます」という電話がありました。

山佐 六月頃だったと思いますが、当直員から「私は何も知らないのですが、お願いします」と言われた。そこで彼には参考館に直行してもらい、案内は私がしました。

下野 見学者が多い時は、きまつて年寄りが多い。そのため、参考館の見学では時間の足りないことがよくあります。もっと時間をとりたい。

また、見学者を陸奥の砲塔組と参考館組に分け、参考館の案内を当直員に頼むことが時々あります。でも、当直員で「頼みます」という人が結構います。

司会 当直教官が案内に来た時は彼らがしますね。

下野 術校の生徒が当直員で来るのとがあり、説明が出来ないで困っていることがありますね。かわいそうです。

司会 相手が慣れていない時はむずかしい。

赤レンガの中庭を見学させてほしい

小松 参考館の中庭の見学はいけないのですか。あそこは絵になるのに。

山佐 赤レンガの中庭の説明をしていたら「止めてください」と言われたこと。理由は、道順を外れていること。また、大和の砲弾の大きさを実感するため傍に立ってもらったから、これも駄目とのこと。神聖な場所だからという理由でした。

土手 私の場合、砲弾と背くらべしようとする人はいなかった。

山佐 台の上上がったはいけないが、傍に立つのはいいとのこと。

新本 それは、台の下の玉砂利が散るからでしょう。

井川 大講堂の中を見たいという人も多い。扉を開けていて、中が見えるようにしてもらえないものですかね。

下野 中に入ったことがあるが、音響はすごくいいですね。

新本 あの扉は最初は鉄製。それがこの前の戦争中、金属類の供出で木製のものになった。

陸奥の砲塔見学は

岡村 自衛隊を退職し、この八月からこの仕事についています。仕事をしているうえで問題だと感じたことがあります。その一つは見学者の服装です。例えばつつかけ、せった履きの人。私は靴にしてほしいと頼みましたが、それ以外にもあります。

これは……と
 思う人も衛門
 を通っている
 のであり、強
 くは言えず、
 いつか総務課
 と話し合う機
 会があったら、
 この件話して
 ほしいのです。
 二つめは、陸
 奥の砲塔を見
 たいという人
 が多いが、平
 日は駄目、そ
 れに一時間半の時間では見学はむず
 かしい。ありのままの姿を見てほし
 いというのが術科学校の方針、それ
 に平日はグラウンドでの課業はほと
 んどないので、二時間の時間をとっ
 て見せられないものかと思っていま
 す。

井川 でも、生徒が訓練しているそ
 ばを見学者がだらだら歩くのはどう
 かと思えますが。

岡村 でも、希望者が多いので。
 下野 校内は右側通行だと思ってい
 ますが。

山佐 原則として右側通行。
 小松 ガイドブックには右側通行と
 書いてあるので、右側を歩いていま
 す。

下野 右側を歩いていたら広報の人
 に左側を通ってくれと言われました。
 土手 右側を歩いていたら、左側を
 歩いてくる隊列とぶつかったことが



ある。
 新本 右側通行を原則としたらいい
 のではないですか。また、服装につ
 いては、どうかなと思う時がありま
 す。

艦旗の降納時刻は……

井川 ガイドしていて困ったことが
 ありました。戦死した人の親類の人
 が、七三期の名簿にその人の名前が
 あるはずだと言うのでさがしました
 がありません。写真を送ってください
 たのを見たら水兵服、海兵団と海兵
 を混同していたのです。

土手 五、六年前にそういうことが
 ありました。その人は二等兵曹でし
 た。

西野 先日、艦旗をおろす時間を聞
 かれたので、日没ですと答えたら曇
 の日はどうするのですかと聞かれま
 した。

新本 暦の上の日没時刻でやるので
 は。

岡村 日没の時刻は一日に四十秒く
 らい違うので四捨五人でやっていま
 す。また、軍港の場合は先任艦が信
 号旗を掲げ、他の艦はそれに合わせ
 て掲揚、降納します。術科学校の場
 合は潮汐表に合わせてやっています。
 新本 話は変わりますが、ビデオが
 一週間くらい前に変わったようです
 ね。ただ、巻きもどしをしていない
 時もあるので困ります。

土手 終わって待合室を出る時に巻
 きもどしをしておくよいいのでは。

西野 ビデオの途中で見学に出るこ
 とがある。そういう時、最後まで見
 たいという人がいて困ることがあり
 ます。

術科学校への道順を示す表示を

井川 切串から術校に来たのだが、
 道順がわからなくて困ったというこ
 とがよくある。道順案内を出せない
 ものですかね

西野 役場に聞いた人もいたよう
 です。

司会 江田島町にお願いをしたら。
 とこで、ハンドマイクが用意され
 たので、多人数の時は使うといいで
 す。ただ、使えるのは土、日曜日だ
 けですが。

下野 多人数の場合、前と後が離れ
 ている、後の人が聞こえない時があ
 るのでいいですね。

砲弾の種類を話すとき喜ばれる

井川 参考館
 の中の字が小
 さくて読めな
 い。もっと大
 きな字になら
 ないものです
 かね。ところ
 で、参考館の
 そばにある大
 和の砲弾は徹
 甲弾、弾丸に
 はこの他に三



式弾といわれるのがあります。徹甲
 弾は海戦の時、相手の艦めがけて撃
 つ対艦弾、三式弾は対空砲で飛行機
 めがけて撃つ弾です。さらに艦の弾
 薬庫から砲塔まで弾丸をあげるこ
 とを、揚弾と言いますが、発射するま
 での時間は四十秒。砲弾は一門につ
 き一〇〇発。大和の主砲は仰角四十
 五度で四万二千メートルとびま
 す。飛距離が三万五キロメートルで
 は三十センチあまりの鉄板をぶち抜
 く威力がある。こういうことを説明
 してあげると喜ばれます。(以下略)

ようこそ新しい仲間のみなさん

七月から加入された方の紹介です。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 井川 接也(切串) | 沖世 秀三(小用) | 谷本 博之(切串) |
| 新本 誠記(小用) | 宇根川里躬(山田) | 古本 弘治(切串) |
| 上本 幸男(小用) | 前浜 満(小用) | 瀬田三代子(秋月) |
| 藤原 則雄(山田) | 川尻 一之(小用) | |

*お詫びと訂正

前号で紹介しました新会員下田平都子さんは郁子さんのあや
 まりでした。お詫びして訂正します。

健康婦さんの
からだ
アドバイザー

高齢者の健康管理シリーズⅧ

生活習慣病予防のための基礎知識

Ⅱ薬についてⅡ

病院に通院していると、何らかの薬を処方してもらい毎日服用しているという人も多いことと思います。あなたは、薬をきちんと服用できていますか？

●古くなった処方薬は要注意

余った薬を「もったいない」といつて保存しておく人がいます。しかし、何か月も前に処方された薬を使用することは、非常に危険です。

薬は化学物質なので、置いておく場所の光、温度、湿度などによって変化していきます。変質した薬は、時として体に有害に働きます。薬袋に書かれている期間を過ぎた薬は、思いきって処分しましょう。

また、他の人が処方してもらった薬を、「同じ症状だから」といつてもらって服用するのも、危険なのでやめましょう。

●食前・食後・食間の服用を守る

食前・食後は、食事の前・後二十～三十分が適当です。また食間は、食後二時間たった後とされています。この違いは、薬の吸収段階での食事の影響と、薬の消化管粘膜への影響の程度によって分けられています。

これは、薬が食後三十分ぐらいいまでは、胃から小腸の上部にとどまり、食後二時間ぐらいい小腸の下部に移

動するためです。薬によっては、胃や小腸粘膜に障害を与える場合があるので、服用の指示時間はきちんと守りましょう。

十一月三日、町の文化祭に昨年に引き続き参加しました。シルバー人材センター展は、江田島高校南校舎一階に、親子創作コーナーは同高校中庭に。以前から文化祭への出展に備えて会員が作品に取り組み、前日の二日は午前十時から会場の準備にかかり、終わったのが午後四時でした。

第48回江田島町文化祭に参加して

文化祭当日午前八時に集合して、今一度もれはないか、それぞれが点検、確認後午前八時三十分からの式典に参列のため、小用小学校校庭に移動。主催者、来賓ほか参列者のスーツ姿の中にわがシルバー会員は、総員がブルーとピンクのハッピー姿で臨み式場に一段と色彩りを添えていました。司会者から今年は、シルバーさんが式典に出席してくれて、例年に比し華やかでしたと感謝の言葉がありました。(何事もPR、その存在感をアピールする

(3ページ下段からつづく)
配布された弁当を広島港到着前に食べる。七時頃予定通り到着、下船する。入口付近は一ぱいの船客だ。切串と小用行きに別れ乗船して、旅

必要あり)

センター展は、竹細工・木工組木玩具・花台・なつめ作品等展示品は五七〇点に及び、会場いっぱいに所せましと並べられ、入口に会計席を設けたものの、小さいテーブルしか使えず、入る人、出る人と終日にぎわいをみせていました。

売上げは、世の中の不況を反映してか、縁起物の「えと」である石音細工の兎(卯)の置物や恵比寿・大黒天の壁掛等に特に人気が集まりました。全品目の売上げ点数は、三八〇余点となり金額も一七万三千円と年々上昇して来ている状況です。

センター展の出入口は、高校正門通路の裏側になっており、人の出入りが少ないのではないかと当初懸念されましたが、その心配は全く無用のようでした。(今や当センター展はないかと自画自讃)

一方、高校中庭に設けた親子創作コーナー及び綿菓子販売は、子どもや親子連れの人気を集め、竹細工では比較的手軽な竹笛、竹とんぼにおぼつかない手つきで小刀を使って挑戦、つい手を差しのべて小刀の使い方を指導する場面もあったりしましたが、それでも出来上がると歓声

の余韻を残し乍ら家路につく。今回の旅も大きな成果を残して幕を降ろすに際し、この会が永く続く事を願いつつペンを置きます。

(M・K記)

をあげる子ども達に親も喜びの笑顔を見せました。(竹細工に挑戦した子ども達は八十六名でした。)

また、綿菓子は値段の手ごろさもあって常時十人余りの列が出来、担当の下野・西野両会員は、急ごしらえの綿菓子屋さん、大分馴れはしたものの出来上がりに多少の大小があるのはやむを得ない。それでも子ども達に「はいどうぞ」と手渡すとニコニコ顔で受取って行く。その笑顔に励まされてはいたが、遂にダウン。やむなく「ただ今休憩中」の張紙をして一息入れたりする程の盛況ぶりでした。

準備に半年間をかけた苦勞も本日一日で燃焼し、町民に人材センターの存在意義を十分に認識してもらったものと、それぞれ充実感を味わいながら、午後四時後片づけにとりかかりました。

